

# 正しい搾乳手順を実践しよう

- ①搾乳は乳牛が血液中に放出するオキシトシンという乳汁降下ホルモンのプラスの力とミルクカーの真空圧のマイナスの力を利用した牛と機械（人）の共同作業です。
- ②乳房炎原因菌やその他の細菌にとって生乳は絶好の栄養源です。この目に見えない敵と対決するには、現在推奨されている方法と手順を実行する以外勝ち目はありません。
- ③搾乳は酪農の中で現金に一番近い収穫作業です。この作業を快適にできるよう環境衛生を保持して、安全で信頼できる高品質な牛乳を消費者の食卓に届け、消費者の期待に応えましょう。

## 1. 必要な用具を準備しよう

- ①ユニット一式、バケットミルクカー、クォーターミルクカー
- ②一頭一布以上の乳頭清拭用の清潔なタオル
- ③消毒液に浸した乳頭清拭用タオルの入ったクーラーボックスもしくはバケツ  
(ふた付きの保温性のあるクーラーボックスの方がよい)
- ④乳頭乾燥用のペーパータオルもしくは乾燥した清潔なタオル（一頭一布以上）
- ⑤消毒液の入った手洗いバケツと手拭き用の清潔なタオル
- ⑥使用済みの布タオルやペーパータオルを入れるバケツ
- ⑦ディッピング用品  
※プレディッピングの場合、③のタオルは全頭分は不要。乳頭の汚れがひどい牛に使用します。
- ⑧黒色のストリップカップ
- ⑨乳房炎診断液（PLテスターなど）
- ⑩メモ板・筆記用具

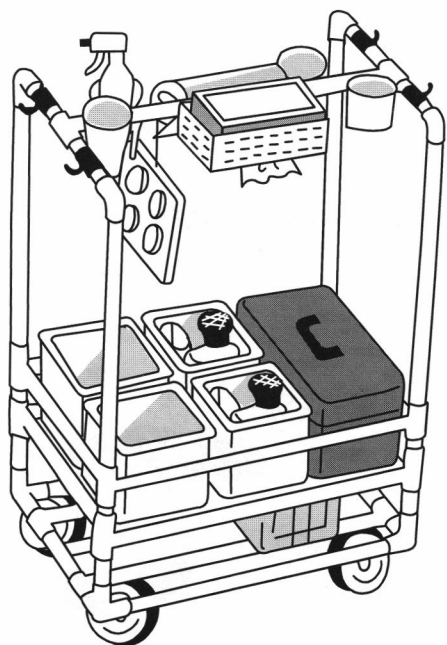


図1 搾乳カートの例

## 2. 搾乳の前に確認しよう

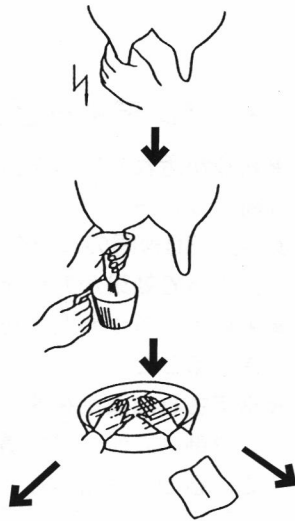
- ★バルクタンクのコックは閉めましたか？
- ★ミルクホースをバルクタンクにつなぎましたか？
- ★治療中の牛を確認しましたか？
- ★搾乳手袋をつけましょう



写真1 搾乳手袋

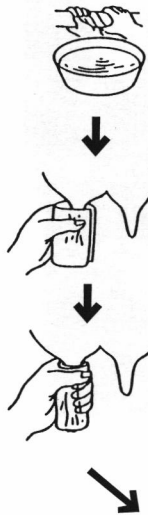
## 推奨される正しい搾乳手順

### 前作業



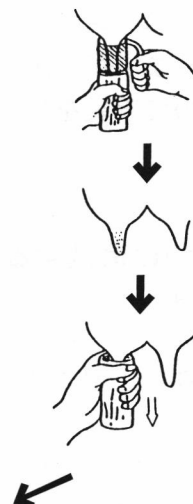
- ①乳頭刺激
  - ・乳頭に付着したゴミを搾乳手袋をした手で落とす  
(汚れのひどい時は乳頭洗浄する)
- ②前搾り (乳頭刺激) と乳汁チェック
  - ・各分房3～5回ずつ、黒のストリップカップに受けて  
ブツなどの有無を確認する
  - ・乳汁の飛沫によって搾乳者の手が汚染されないように  
注意する
- ③手袋をした手を殺菌液で洗う
  - ・清潔なタオルで殺菌液 (水分) を拭き取る
  - ・搾乳中は頻繁に手を洗う

### 乳頭清拭・乾燥・タオル派



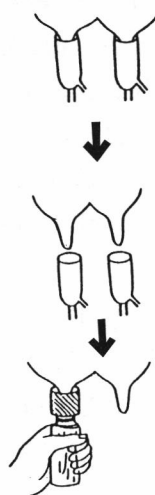
- ④タオルによる清拭
  - ・殺菌液に浸したタオルを  
強く絞る
  - ・1頭1布
- ⑤乳頭、乳頭孔を丁寧に拭く
  - ・乳頭以外拭かない
- ⑥乳頭乾燥
  - ・殺菌液をペーパータオルで  
よく拭き取って乾燥させる
  - ・拭いた後乳頭は触らない

### 乳頭清拭・乾燥・プレディッピング派



- ④プレディッピング
  - ・殺菌液を乳頭のみにつける
  - ・専用剤を使用。(0.1%ヨード剤)
  - ・ノーリターンディッパーを使用
- ⑤コンタクトタイム
  - ・20～30秒間待つことにより効果  
がある
  - ・乾きすぎ注意
- ⑥乳頭拭き取り・乾燥
  - ・殺菌液をペーパータオルでよく  
拭き取って乾燥させる
  - ・拭いた後乳頭は触らない

### 搾乳



- ⑦ライナー装着
  - ・①の作業から約1分後に空気を入れずに装着する
  - ・ミルクチューブでユニットの位置を調整する  
(ねじらず、やや前方に)
- ⑧次の牛で①～⑦の作業の繰り返す
- ⑨ライナー離脱
  - ・ライナー装着後5～6分後に
  - ・やむを得ずマシンストリップングする場合は最小限に
  - ・真空遮断後一呼吸置いて丁寧に
- ⑩ポストディッピング
  - ・搾乳終了直後に乳頭の2/3以上丁寧に漬ける
  - ・ノーリターンディッパーを使用する
  - ・専用剤を使用する。(0.5～1%ヨード剤)
  - ・乳頭孔が閉じるまで15分程度牛を立たせておく

図2 搾乳手順  
DAIRYMAN臨時増刊号  
「次代はミルク」  
第3章一部改変